

石垣市地域福祉にかかわる市民意識調査 調査報告書（概要版）

1. 調査の目的

石垣市地域福祉計画策定を進めるにあたり、市民の地域福祉に係る意識構造や、生活課題、地域福祉推進のための意向調査を行い、これらに係る問題点、市民ニーズを的確に把握し改善に係る提案書を収集・整理し、計画策定に反映していくことを目的としています。

2. 調査設計

調査対象者数

- (1) 市内に在住の20歳以上79歳以下の男女約2,000人
- (2) 標本の抽出は無作為による抽出

なお、地区区分の配布数と回収数は次の通りとなっています。

地区	対象字	配布数	有効回収数	有効回収率
市街地	登野城、大川、石垣、新川	1,118	594	53.1%
東部地区	平得、真栄里、大浜、宮良、白保	692	448	64.7%
北部・西部地区	桃里、伊原間、平久保、野底、桴海、川平、崎枝、名蔵	130	93	71.5%
新興地区	八島町、美崎町、浜崎町、新栄町	209	124	59.3%
	不明		2	
	全体	2,149	1,261	62.9%

3. 調査結果

(1) あなた自身について

①あなたの年齢

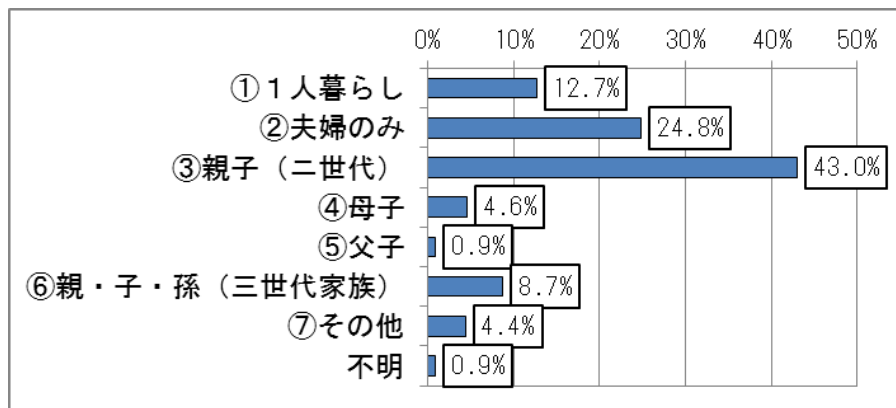
60代が22.4%と最も高く、以下40代、30代の順となっています。

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
人数	99人	240人	269人	218人	282人	149人	4人	1,261人
割合	7.9%	19.0%	21.3%	17.3%	22.4%	11.8%	0.3%	100.0%

②性別

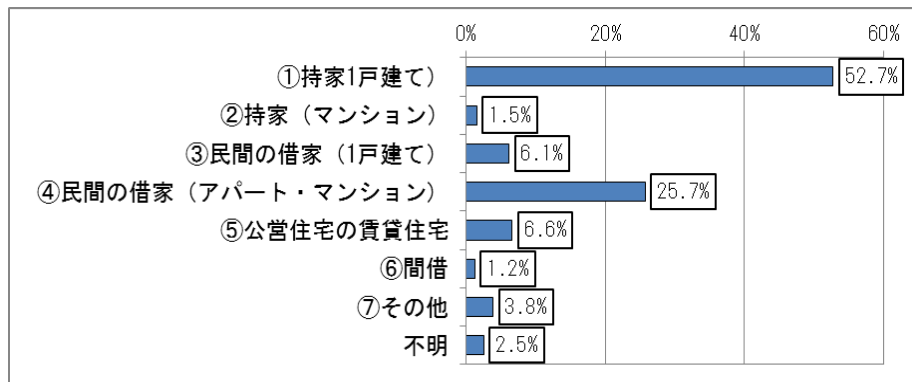
	男性	女性	不明	合計
回答数	583	670	8	1261
割合(%)	46.2%	53.1%	0.6%	100.0%

③あなたの家族構成



「親子(二世帯)」が43.0%と最も高く、以下「夫婦のみ」24.8%となっています。

④お住いの住宅の形態

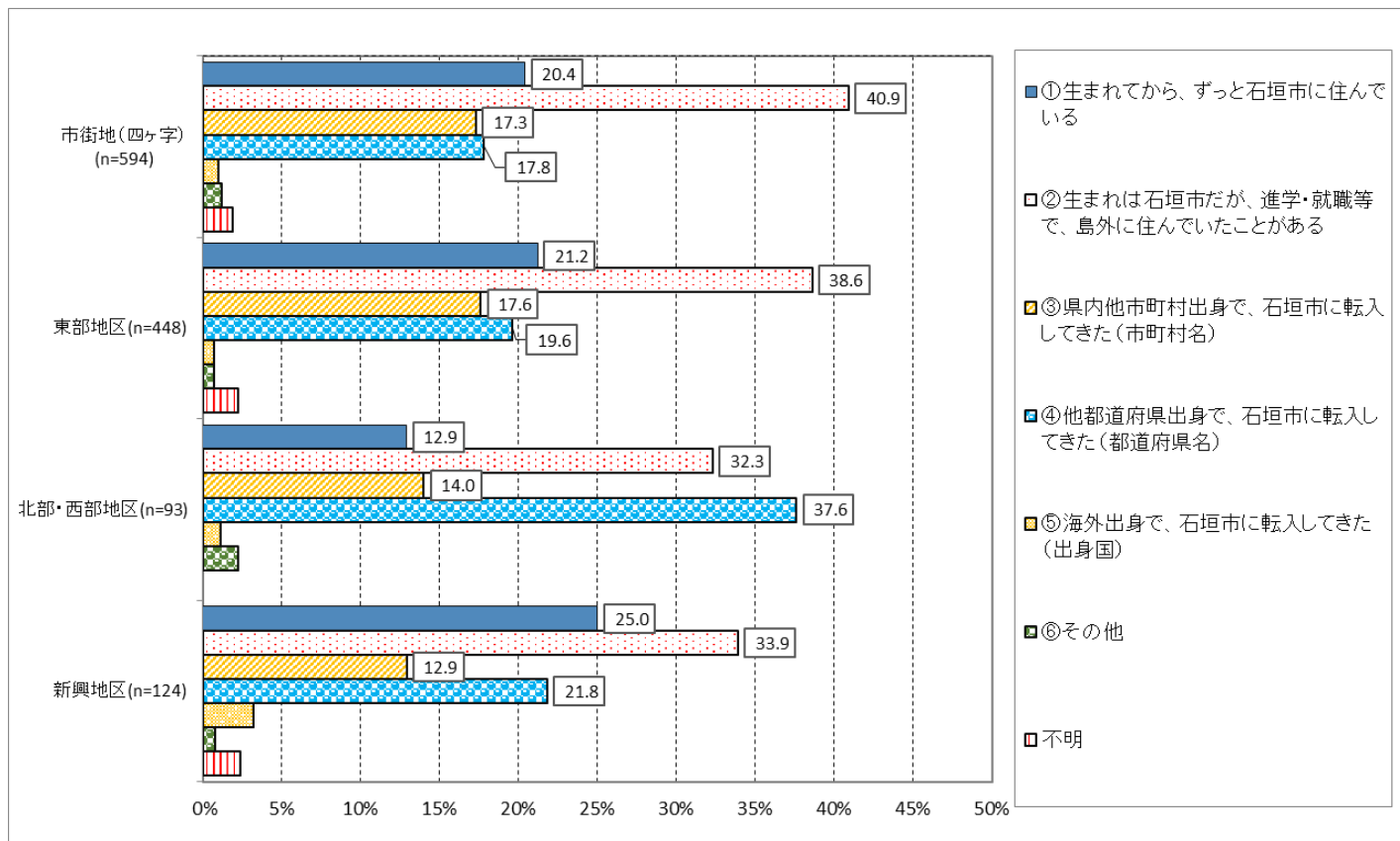


「持家(1戸建て)」が52.7%と最も高く、以下「民間の借家(アパート・マンション)」25.7%となっています。

⑤石垣市に移住する以前に、他の地区に住んでいたか（複数回答・地区別）

「生まれは石垣市だが、進学、就職等で島外に住んでいたことがある」が、市街地の40.9%で最も高く、次いで、東部地区38.6%、新興地区33.9%、北部・西部地区32.3%の順となっています。

また、北部・西部地区では、「都道府県出身者で、石垣市に転入してきた」が、37.6%と高く、他の3地区と比べて島内出身者が低い傾向がみられます。



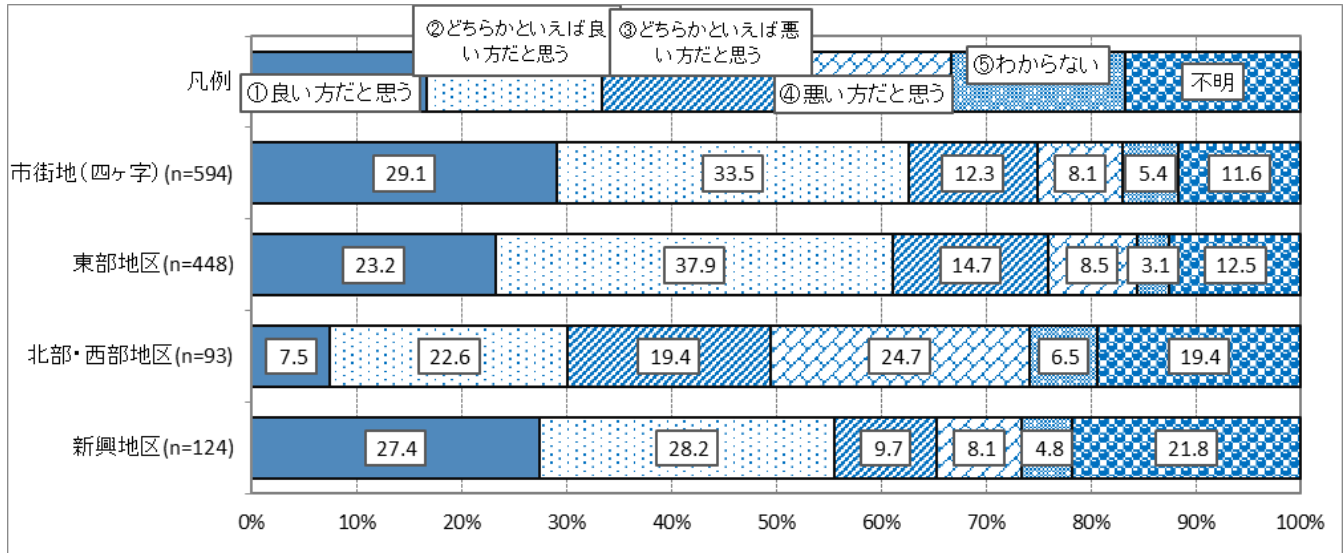
(2) 石垣市の地域環境について (地区別)

石垣市の地域環境の質問については、地区別の特徴がみられたため、地区別の集計結果を示します。

また、ここでは9項目の質問に対して特徴的な傾向がみられた2項目を抜粋しました。

① 通勤や買い物の利便性について

北部・西部地区を除く3地区が「どちらかというの良い方」・「良い方」の合計が55%以上となっており、二人に一人は「通勤や買い物の利便性がある」と感じています。

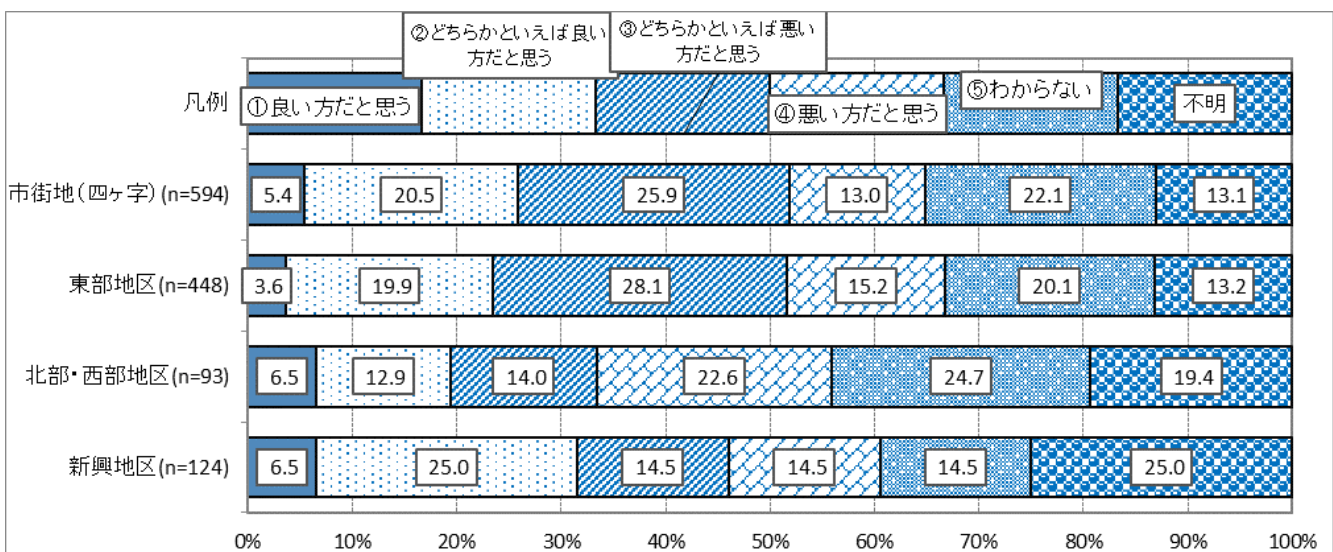


② 困りごとの相談先や情報の入手の利便性について

新興地区を除いて「悪い方」「どちらかといえば悪い方」の合計が「良い方」「どちらかというの良い方」の合計よりも高くなっています。

地区別の「悪い方」「どちらかといえば悪い方」の合計が高い順は、東部地区 43.3% (23.5%)、市街地 38.9% (25.9%)、北部・西部地区 36.6% (19.4%)、新興地区 29.0% (31.5%) の順となっています。

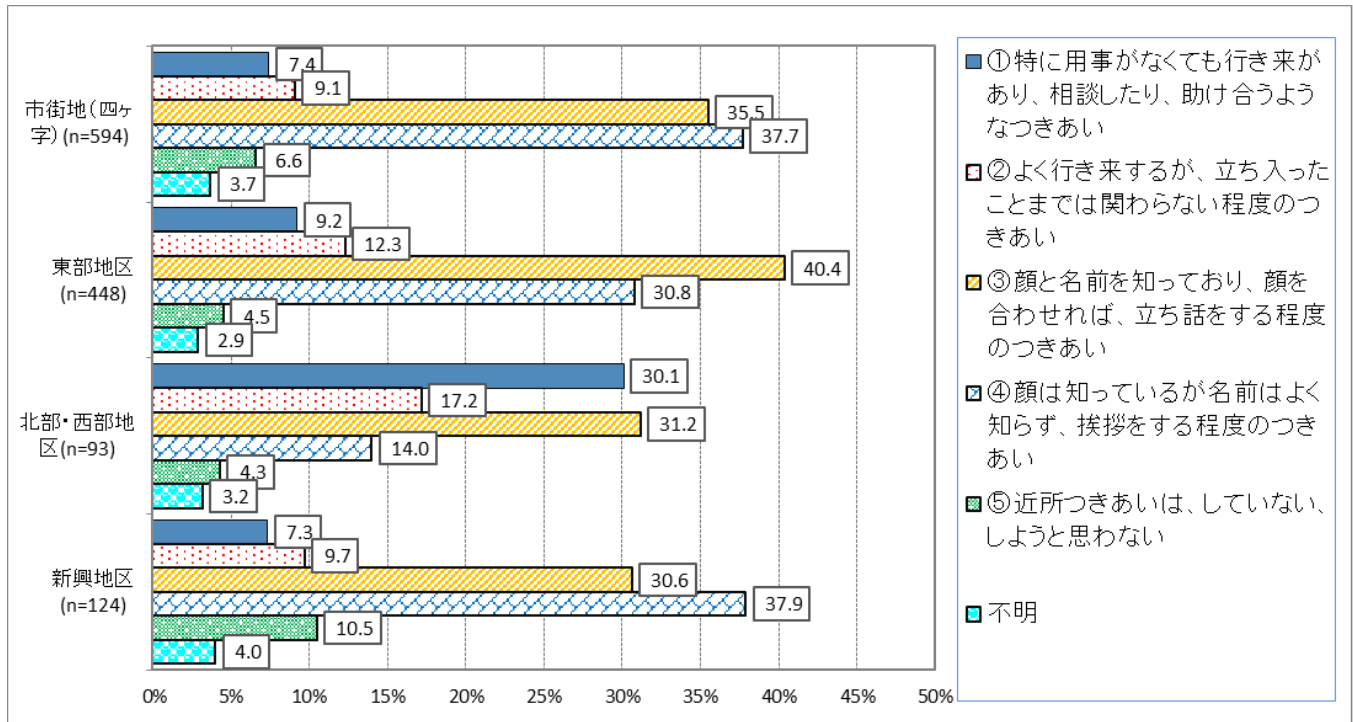
※ () は、「良い方」「どちらかというの良い方」の合計



(3) 日常生活における地域との関わりについて（地区別）

①日ごろ、隣近所の人とどの程度付き合いがあるか（複数回答）

北部・西部地区では、「特に用事がなくても行き来があり、相談したり、助け合うような付き合い」が30.1%と、他3地区では10%未満となっています。

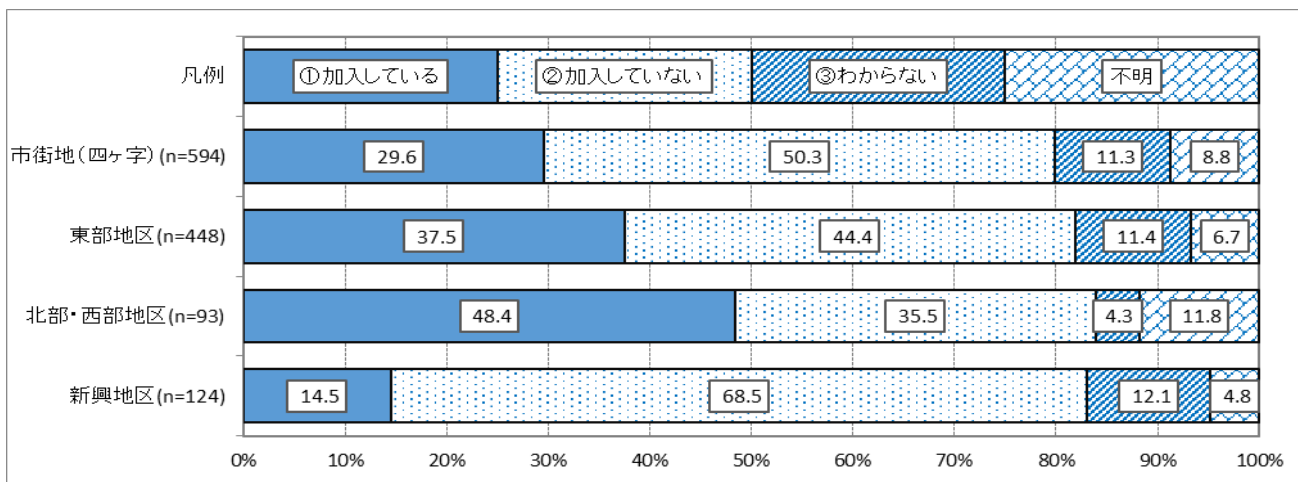


② 自治会の加入率

加入率が低いのは地区別で、新興地区 14.5%、市街地 29.6%、東部地区 37.5%、北部・西部地区 48.4%の順となっています。

加入率が最も低くみられた新興地区に関しては、加入していない理由が「必要を感じない」22.4%、「加入の勧誘がない」24.7%あり、全体と比べて5ポイント以上高くみられます。

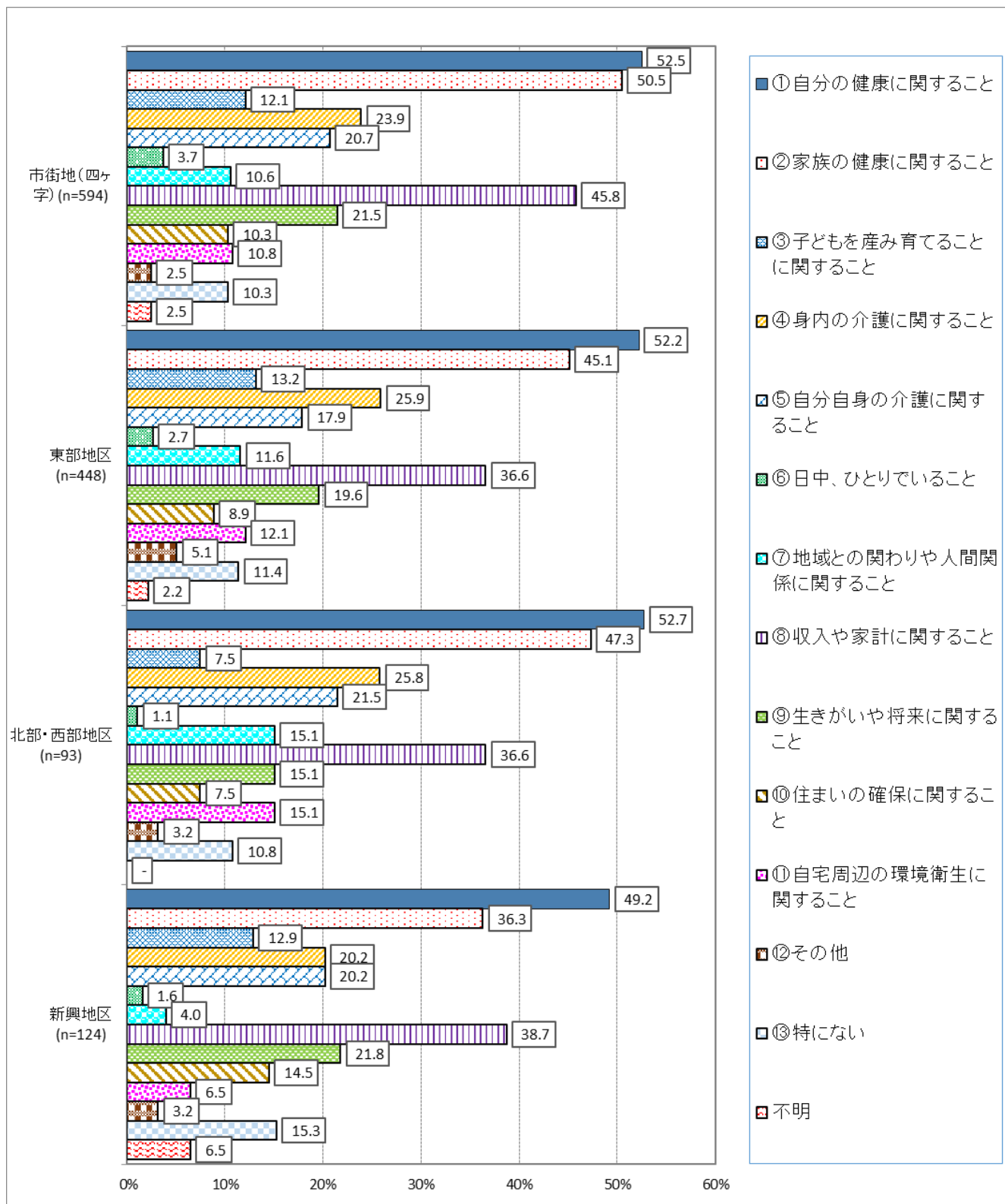
一方で、自治会加入率が低さは、「自治会」本来の目的、活動を理解していないことが考えられます。その対処法として、情報の発信・提供により、自治会の活動を知ってもらい協力体制を作り上げることが必要だと考えられます。



③ 日常生活でどのようなことに不安を感じているか

全ての地区で「自分の健康に関すること」が最も高く、以下「家族の健康に関すること」、「収入や家計に関すること」の順となっています。「収入や家計に関すること」では、市街地 45.8%となっており、他3地区に比べて、10ポイントも高くみられます。

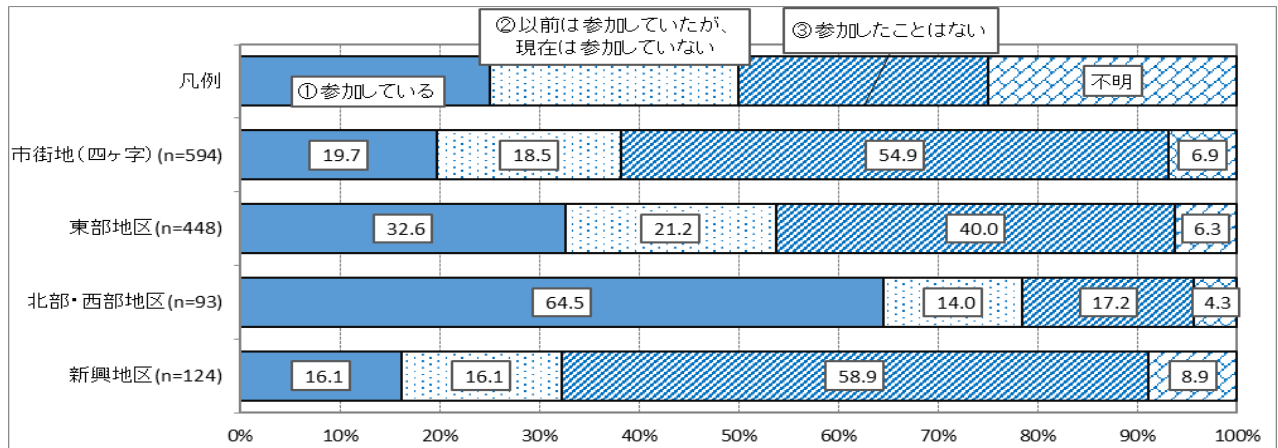
また、「日中、ひとりであること」の項目が、3%と少数意見ですが1261人中37人の方が不安と感じていることから、各地区での見守りや、声かけなど等の仕組みづくりを考えていく必要があります。



(4) 地域活動についての考え方（地区別）

① 地域活動に参加しているか

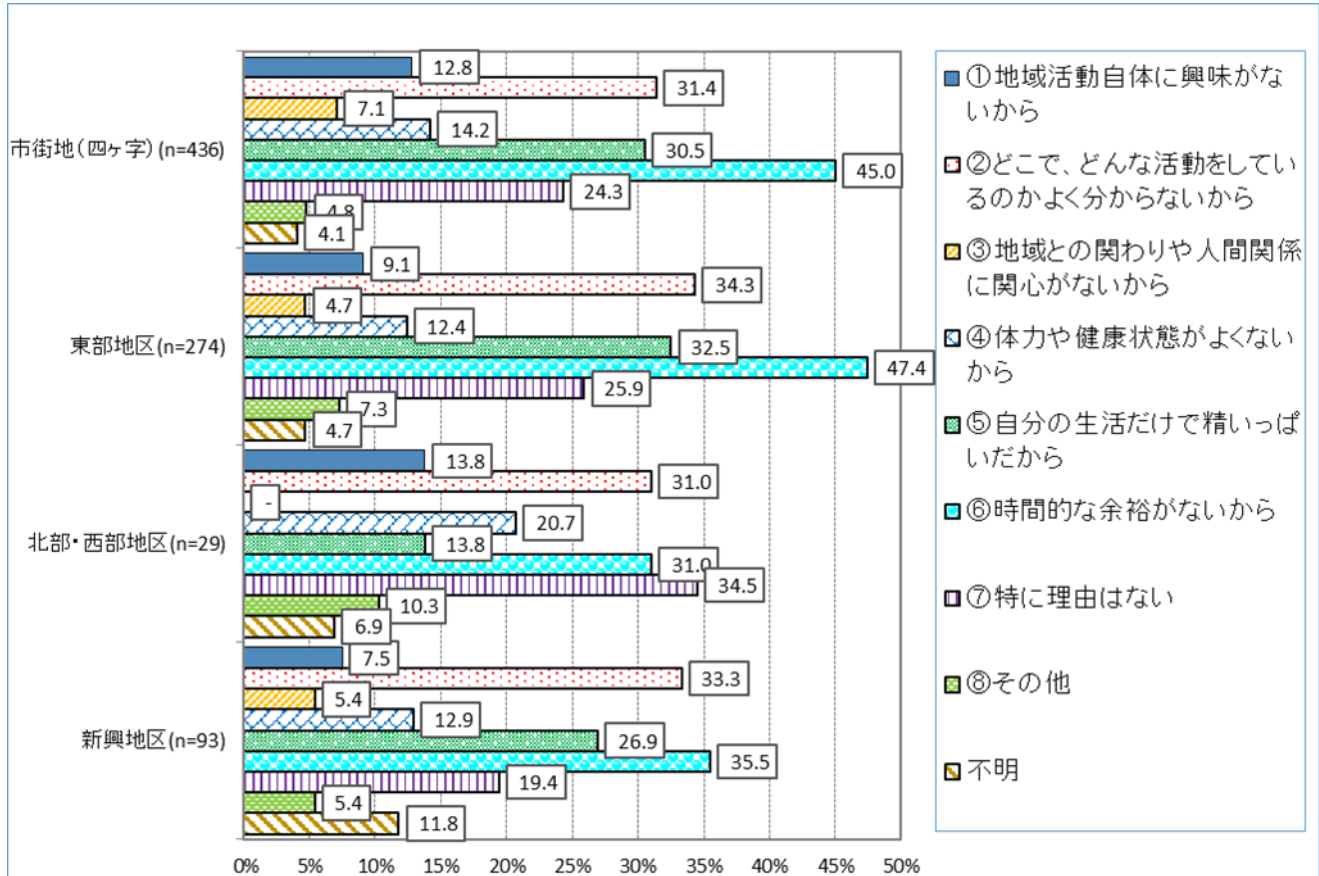
「参加している」の割合は、北部・西部地区が64.5%と最も高く、他の3地区と比べて30ポイント以上高いです。一方で、市街地、新興地区においては20%未満となっており、地域活動の関心の薄さがみられます。



② 地域活動に「参加していない主な理由」

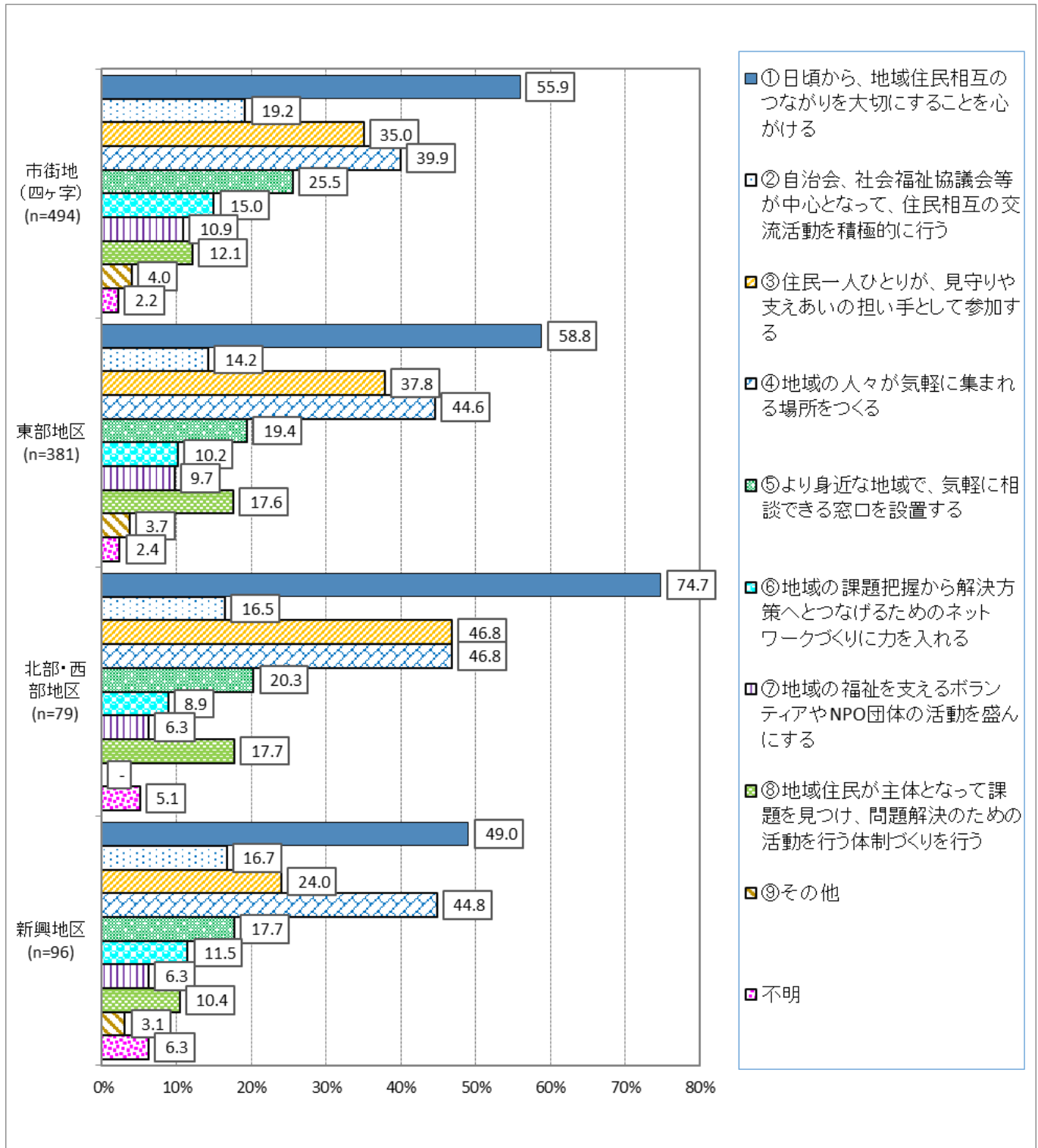
市街地・東部地区・新興地区では「時間的な余裕がないから」が高く、北部・西部地区では「特に理由はない」が高くみられます。

全ての地区で3人に1人が「どこでどんな活動をしているのかよくわからない」と回答しており、地域活動の認知度が薄いことが感じられます。



③ 住みやすい地域にするにはどんなことが必要と思うか

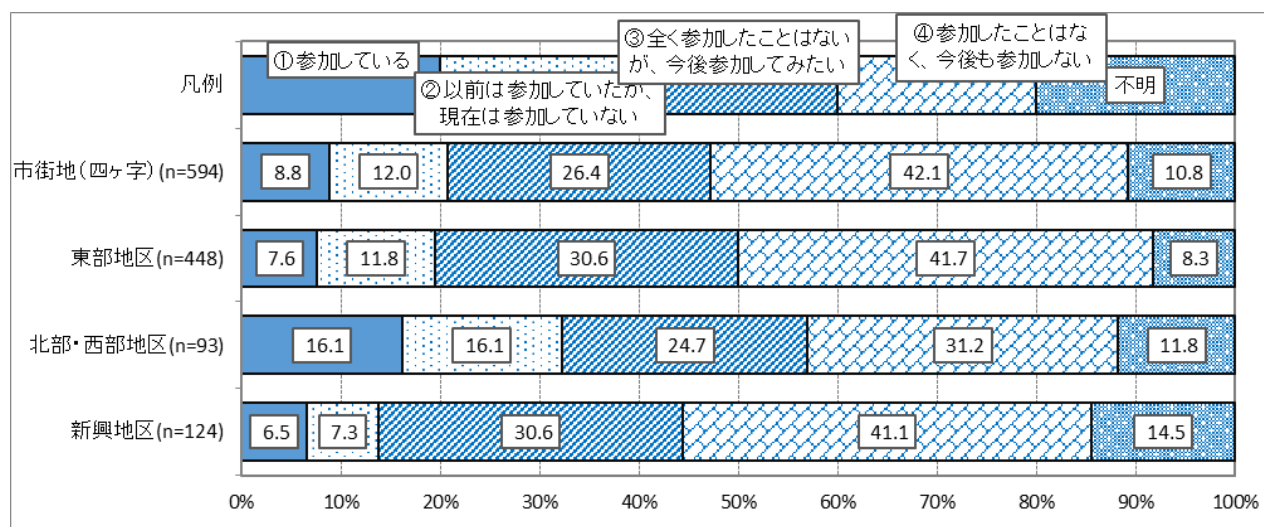
全ての地区で、「日頃から地域住民相互のつながりを大切にすることを心がける」が最も高く、北部・西部地区 74.7%、東部地区 58.8%、市街地 55.9%、新興地区 49.0%の順となっています。また、北部・西部地区と新興地区では 25.7 ポイントの差が生じ、地域住民で支えあうことへの意識の差があると考えられます。



(5) ボランティア活動・NPO 活動について

① ボランティアの参加について

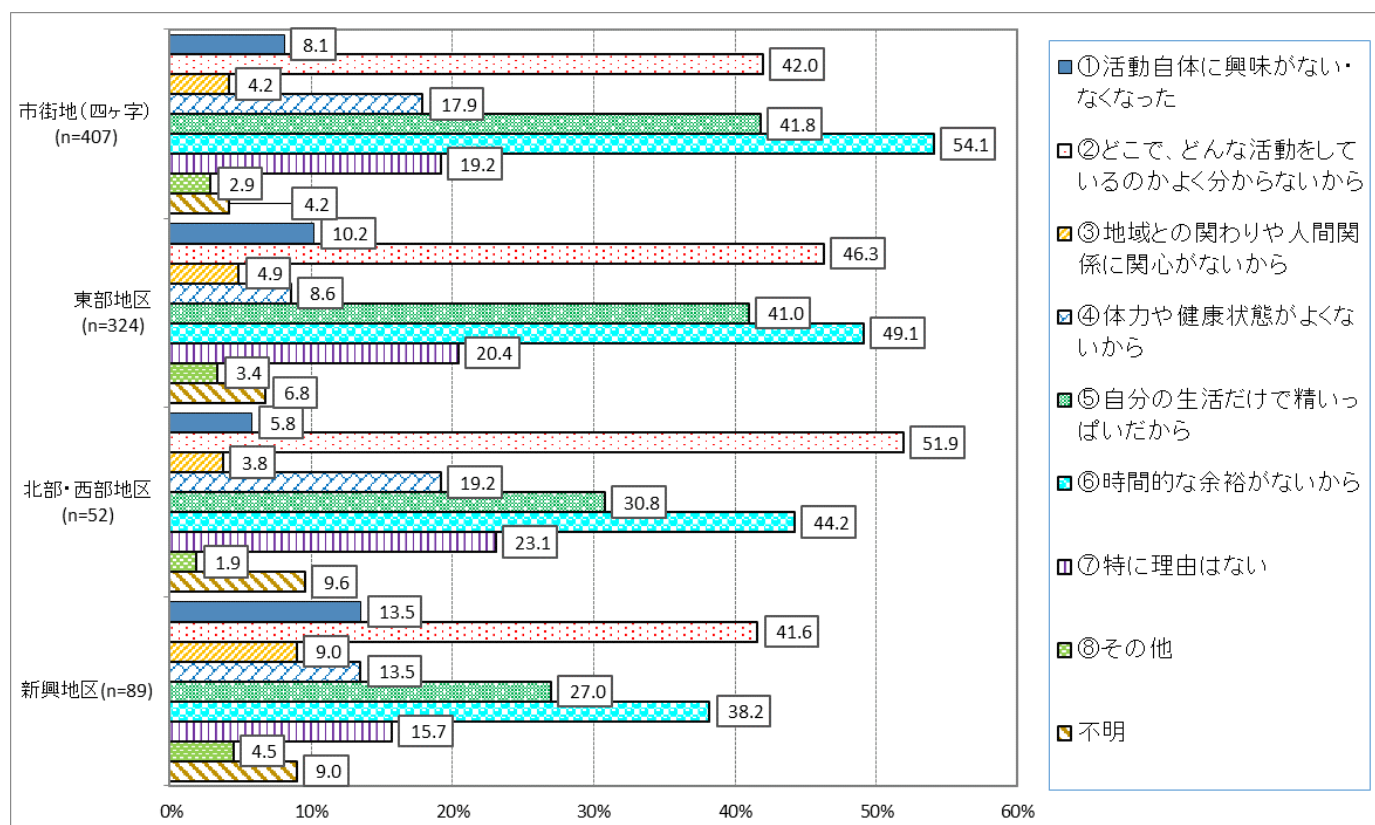
北部・西部地区を除いて3地区で「現在の参加率」が9%未満となっています。



② ボランティア活動・NPO 活動に「参加していない主な理由」

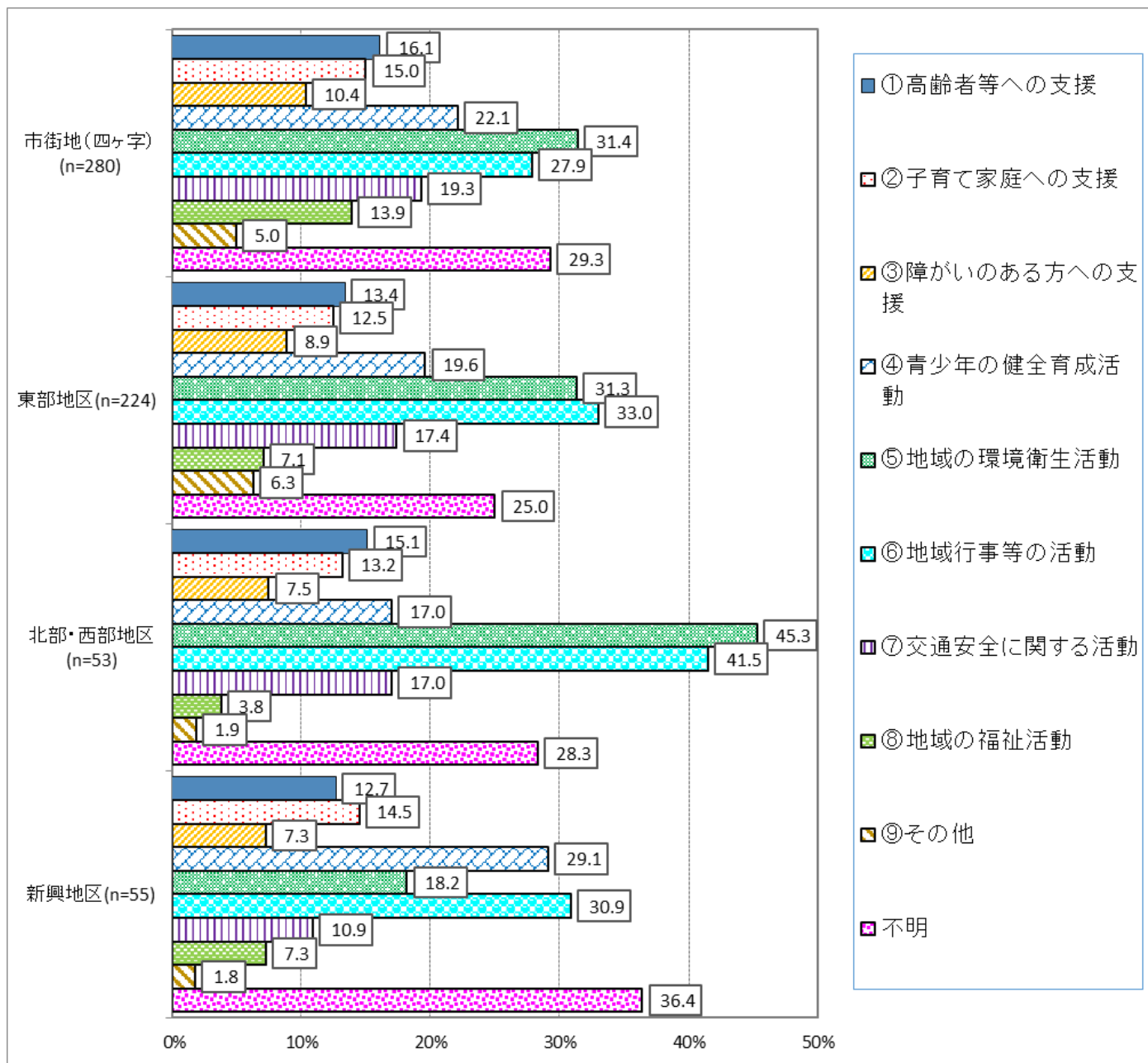
市街地・東部地区・新興地区では「時間的な余裕がないから」が高く、北部・西部地区では「特に理由はない」が高くみられます。

全ての地区で3人に1人が「どこでどんな活動をしているのかよくわからない」と回答しており、ボランティア活動・NPO 活動の認知度が薄いことが感じられます。



③ 「参加してみたいボランティア活動・NPO活動はなにか」

新興地区を除く3地区で、「地域の環境衛生活動」、「地域の行事等の活動」が高く、北部・西部地区においては他の3地区と比べて10ポイント以上高くみられます。



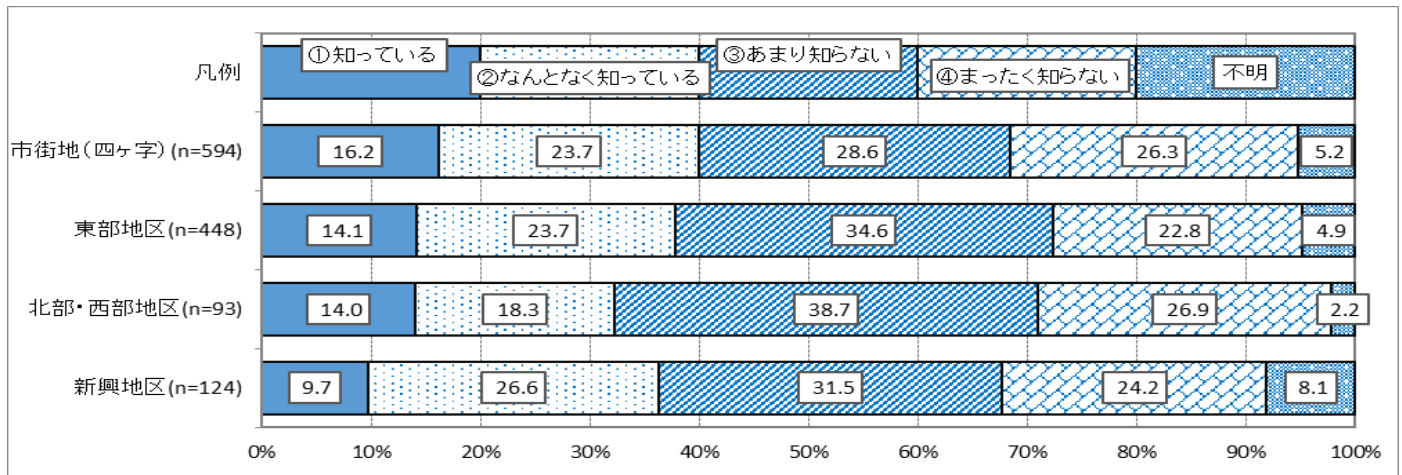
(6) 石垣市の福祉のあり方について

①家族に介護の支援が必要になった場合、必要なサービスの受け方を知っているか

全ての地区で「あまり知らない」「全く知らない」の合計が「知っている」「なんとなく知っている」の合計よりも高くなっています。

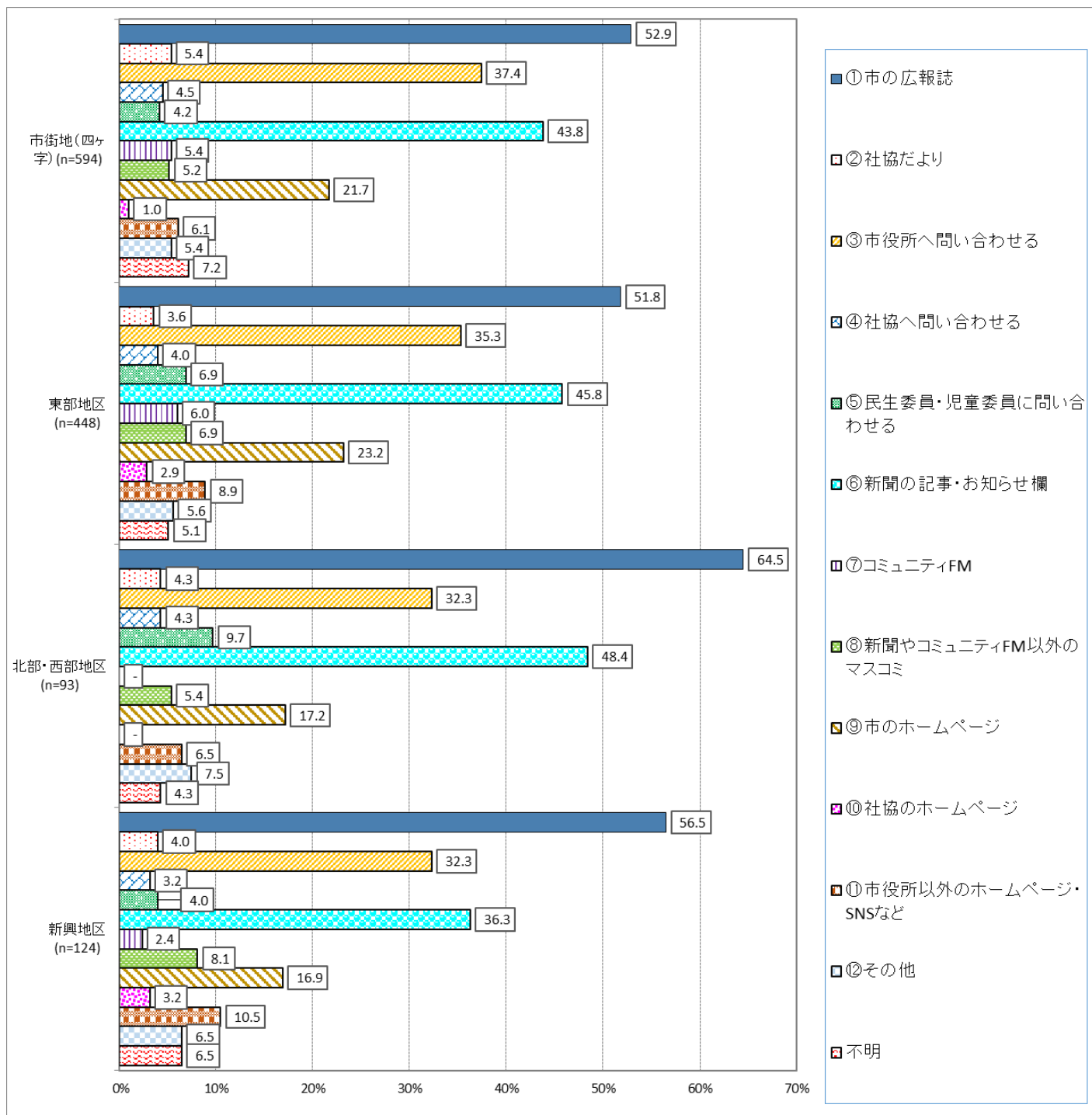
地区別の「あまり知らない」「全く知らない」の合計が高い順は、北部・西部地区 65.5% (32.3%)、東部地区 57.4% (37.8%)、新興地区 55.7% (36.3%)、市街地 54.9% (39.9%) の順となっています。

※ () は、「知っている」「なんとなく知っている」の合計



② 地域の福祉の情報をどこで入手するか

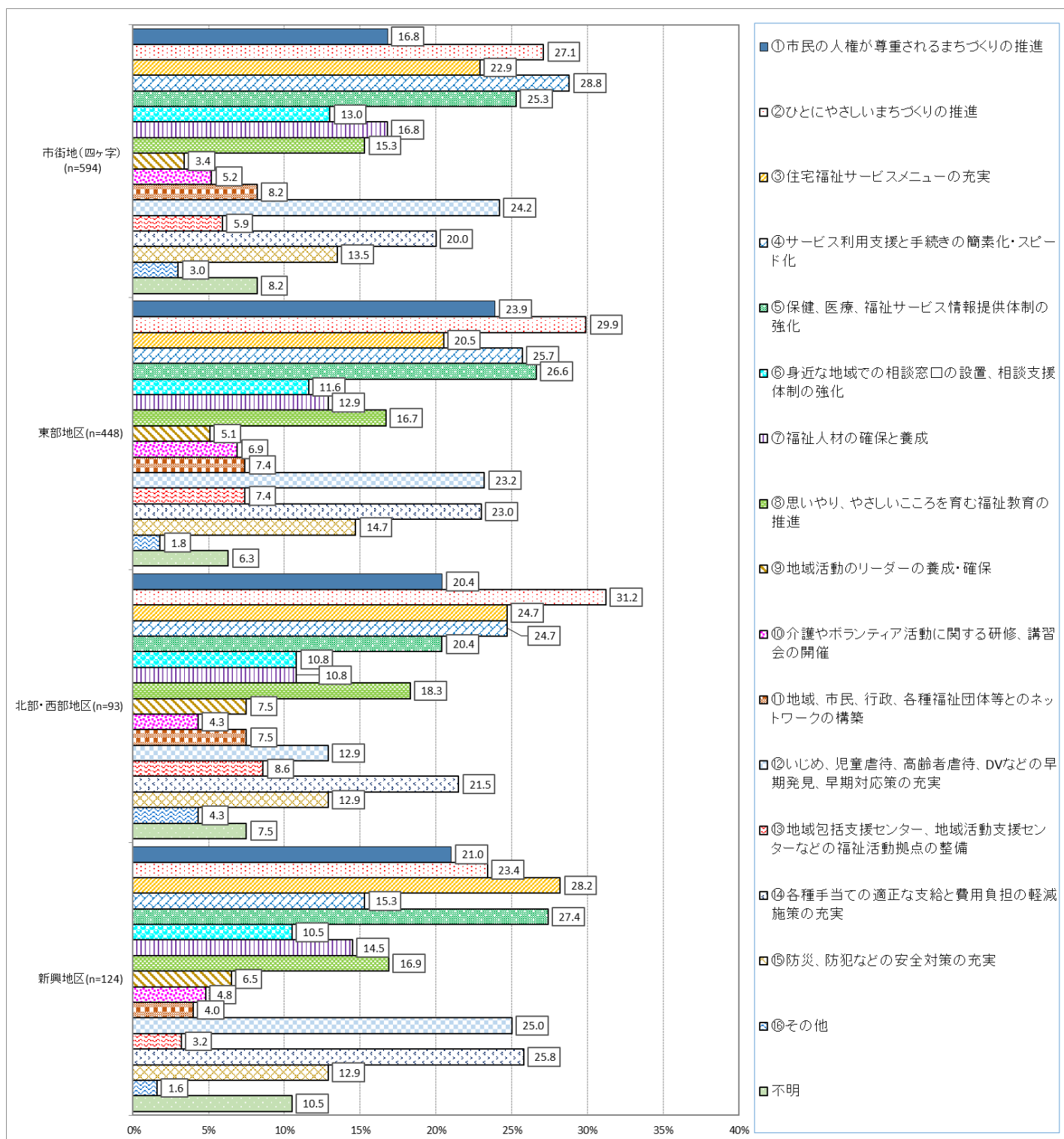
石垣市の2人のうち1人は地域の福祉の情報を「市の広報誌」で収集しています。次に、「新聞の記事・お知らせ欄」となっています。



③ 今後、石垣市が重点を置くべき福祉施策はどのようなことだと思うか

各地区でそれぞれの置かれた環境においてニーズが変わっています。

特徴的だったのは、「いじめ問題」については、北部・西部地区の 12.9%に対して新興地区では 25.0%、市街地 24.2%、東部地区 23.2%と 12 ポイントも差がみられ、都市部の関心が高くみられました。

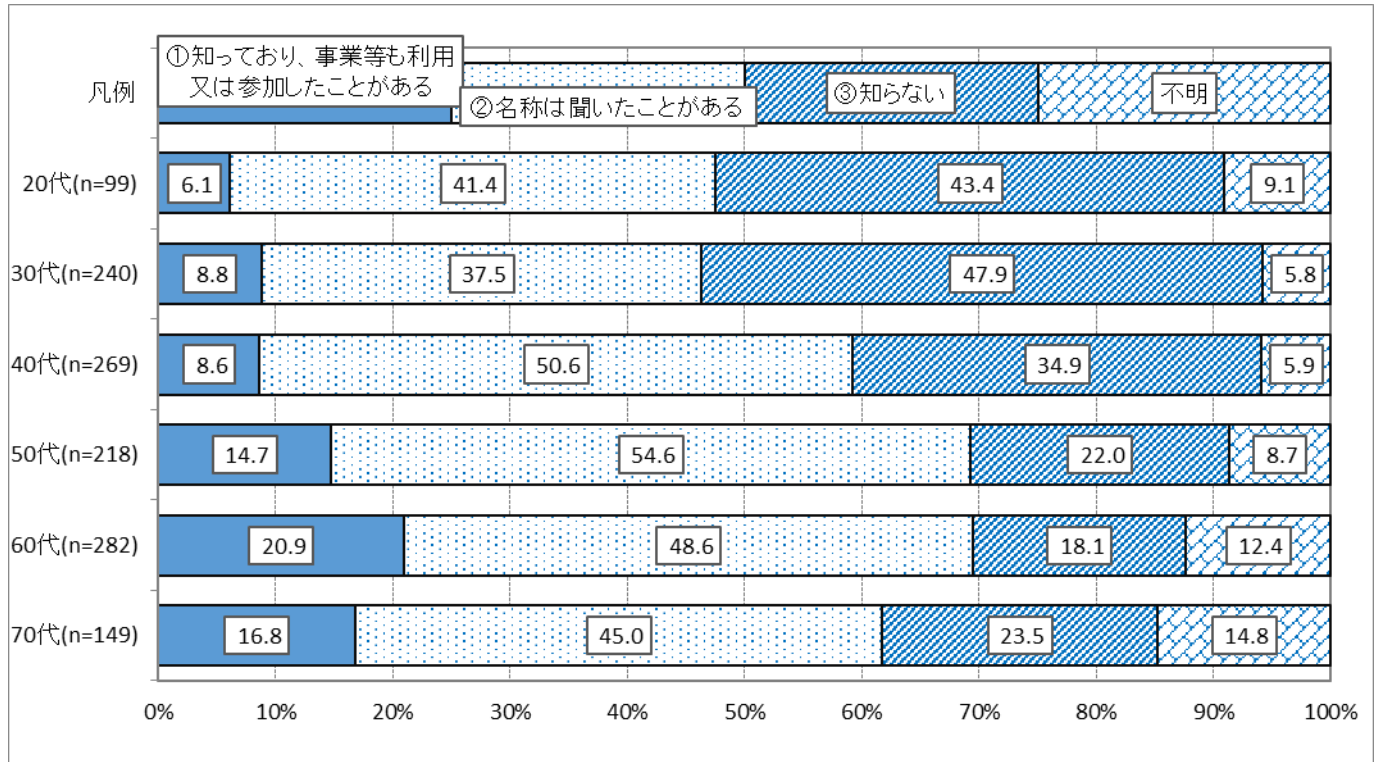


(7) 石垣市社会福祉協議会、民生委員・児童委員について

① 石垣市社会福祉協議会を知っているか（年齢別）

「名前は聞いたことがある」が全体の 46.9%を占め、年齢が上がるにつれて、周知度があがっているものの、事業内容や、利用法については理解できてないと思われます。

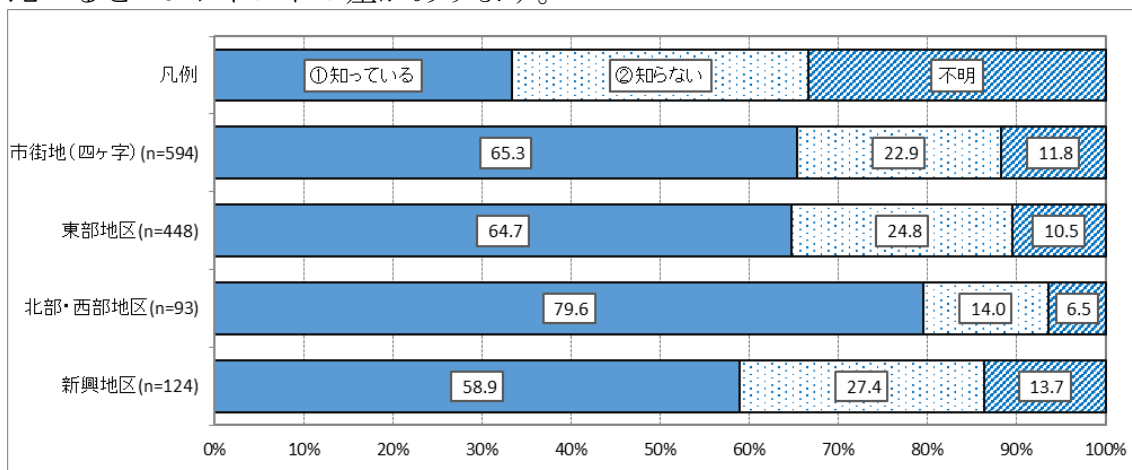
また、「知っており、事業等も利用している又は参加している（以下、利用率）」についても、70代以上を除いて年齢があがるにつれて利用率が高まっていますが、20～40代が10%未満となっています。社会福祉協議会の取り組み内容の周知方法を、再度、確認する必要があると思われます。



② 民生委員・児童委員を知っているか

全ての地区で「知っている（以下、周知度）」が最も高くみられます。

周知度が一番高いのは、北部・西部地区で 79.6%となっており、一番低い新興地区の 58.9%と比べると 20 ポイントの差があります。



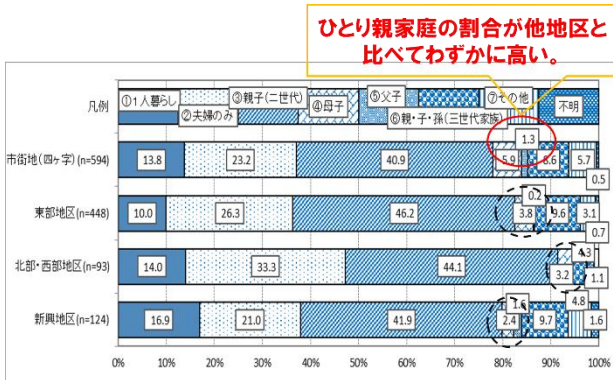
4. 地区別特徴

(1) 市街地区

ひとり親家庭の割合が他の地域と比べて若干高く、回答者が困っていることや不安に思うことでは、「収入や家計」が4.6割（全体4.1割）と高いです。

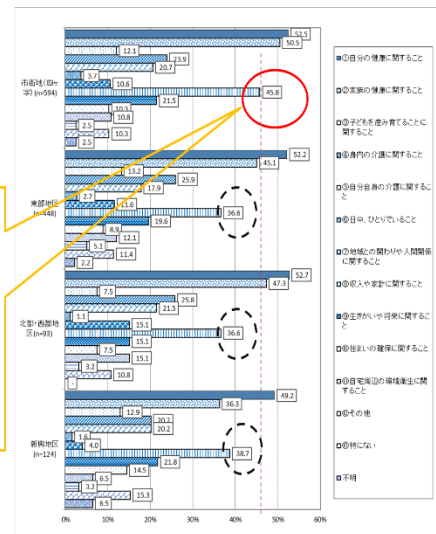
さらに、社協へ期待することも「低所得者の支援」が高く見られました。

① 世帯属性



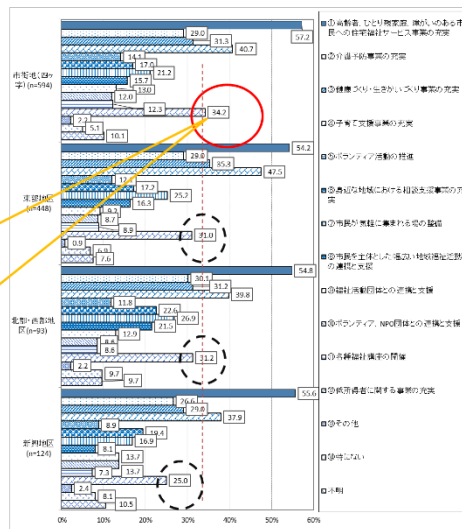
② 日常生活でどのようなことに不安を感じているか

「収入や家計に関すること」が4.6割で、他の地区と比べて約1割程度高い。



③ 社会福祉協議会の活動としてどのようなことに期待しているか

「低所得者の支援」が3.4割と、他の地区と比べて3%程度高い。



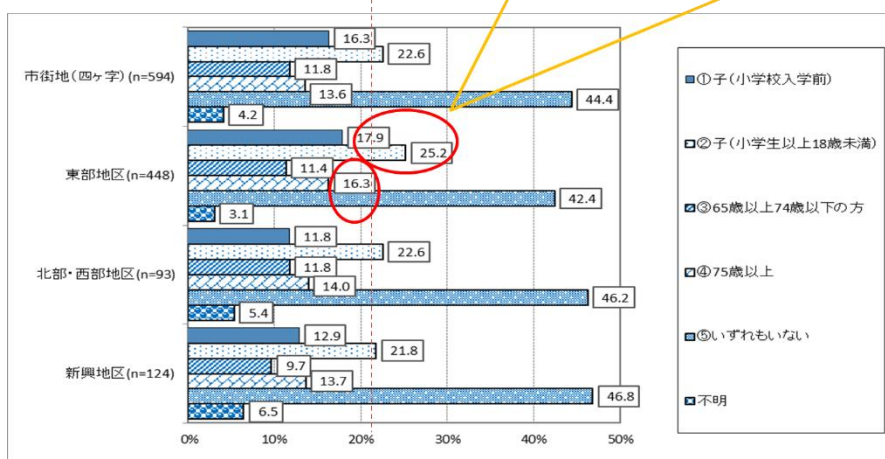
(2) 東部地区

一緒に住んでいる者が、子ども（18歳未満）、75歳以上の割合が他の地区と比べてわずかに高くみられます。

困りごとの相談先や情報の入手の利便性について、「悪いと感じる」割合が他の地区と比べて5ポイント以上高くみられます。

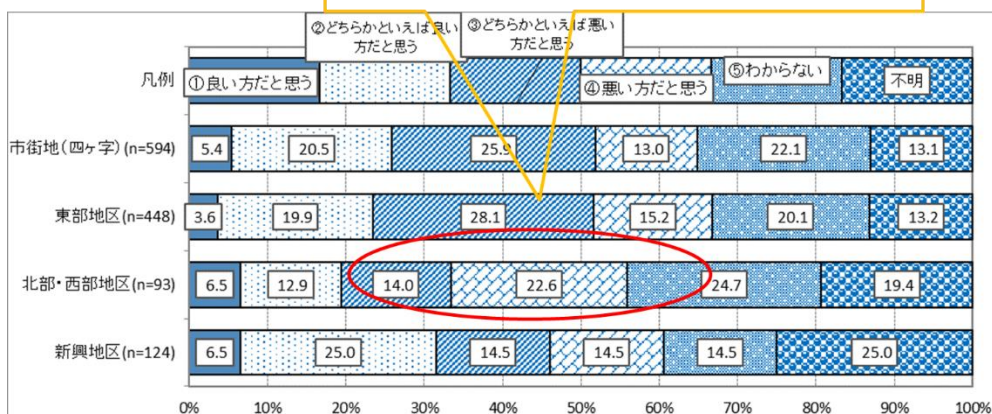
① あなたは現在、子どもや高齢者と一緒に暮らしているか

「子ども」、「75歳以上」の割合がわずかに高い。



② 困りごとの相談先や情報の入手の利便性について

「悪いと感じる」割合が他の地区と比べて5ポイント以上高い。



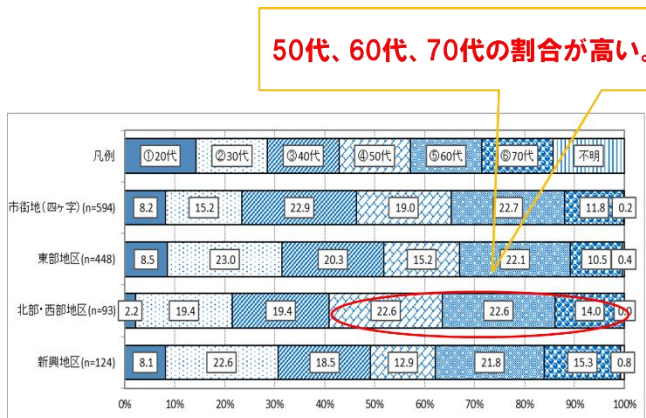
(3) 北部・西部地区

他の地区と比べて年齢層が高く、年金受給者も高くみられます。

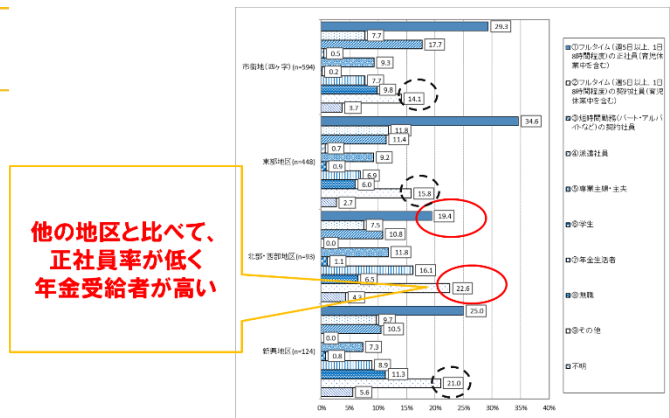
県外出身者が3.7割（全体：2.0割）と高く、15年以上住んでいる回答者が低いです。

買物や通勤等の利便性は「良いと感じる」回答者が極めて低いが、地域行事等への参加率、自治会の加入率、社協や民生委員等の周知度、地域の方に手伝ってもらいたいと思う項目が全体的に非常に高く、隣近所間のネットワークが強く感じられます。

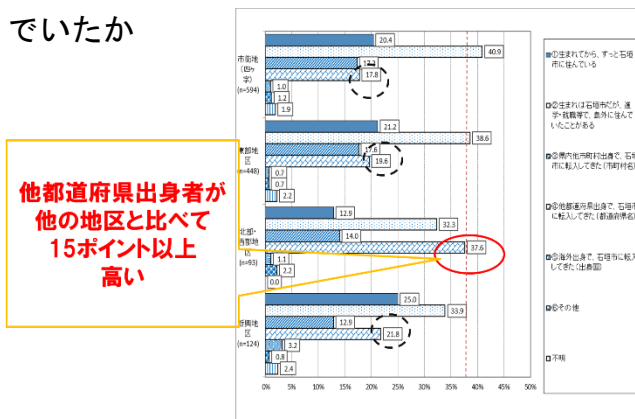
① 年齢



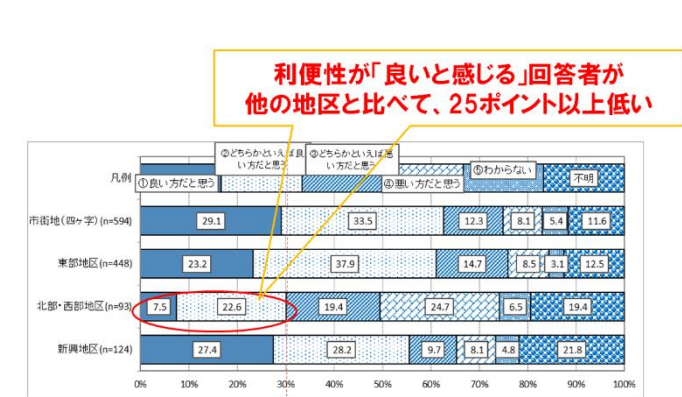
② 職業



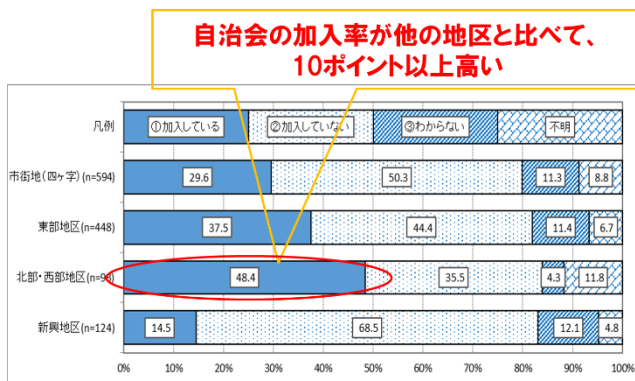
③ 石垣に居住する以前に、他の地域に住んでいたか



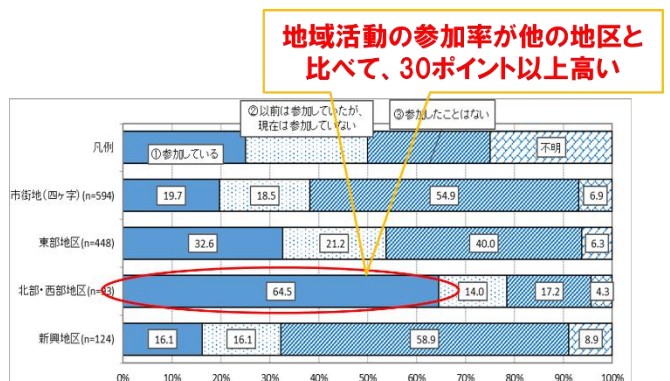
④ 通勤や買い物の利便性について



⑤ 自治会の加入率



⑥ 地域活動に参加しているか



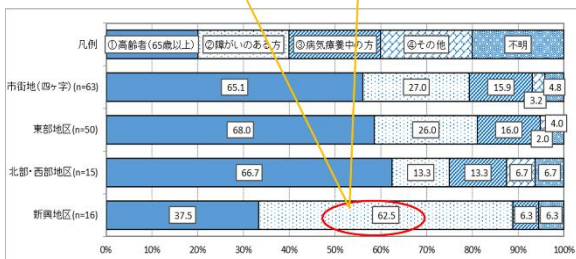
(4) 新興地区

介護が必要な人の内訳は、障がい者の割合が6.3割（全体2.9割）と非常に高くみられます。

自治会加入率、社協の周知度、民生委員・児童委員の周知度が低く、「地域住民が協力して住みやすい地域を創る必要がある」と回答した割合が他の地域と比べて低く7.8割（全体：8.3割）、理由としては「他人と関わりをもちたくない」「わずらわしい」が他の地区と比べて高いです。

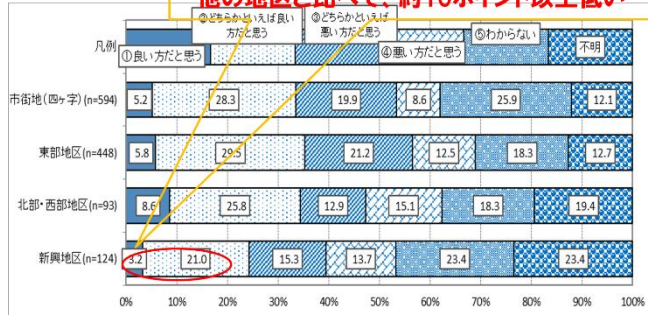
① 介護が必要な方について

介護が必要な人の内訳で「障がいのある方」が他の地区と比べて、40ポイント以上高い



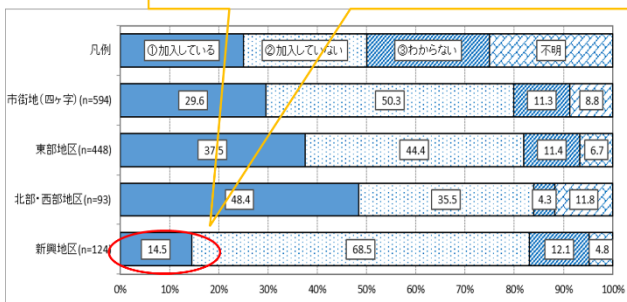
② 防災体制（避難誘導體制）組織の体制について

「良いと感じる」回答者が他の地区と比べて、約10ポイント以上低い



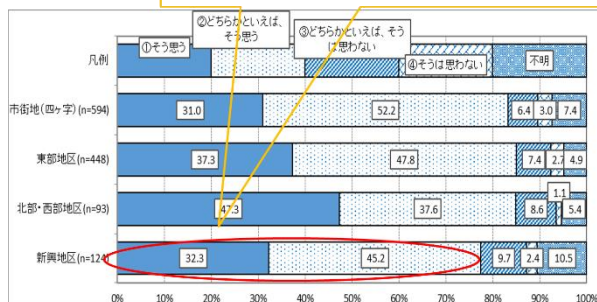
③ 自治会の加入率

自治会の加入率が他の地区と比べて、15ポイント以上低い



④ 地域住民が協力して住みやすい地域にしていかなければならないと思うか

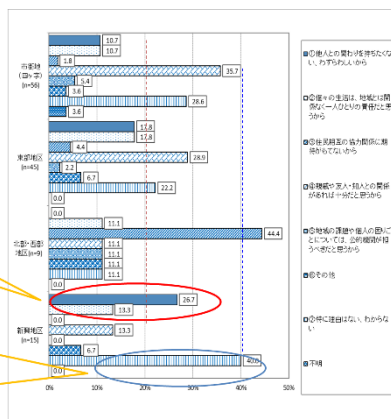
「思うと感じる」回答者が他の地区と比べて、10ポイント程度低い



⑤ 住みやすい地域にする必要がない理由は何にか

「わずらわしい」と感じている回答者が他の地区と比べて、10ポイント程度高い

「特に理由がない」回答者が他の地区と比べて、10ポイント以上高い



⑥ 民生委員・児童委員について知っているか

周知度が他の地区と比べて、5ポイント程度低い

